

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤 C

研究期間：2007~2008 年度

課題番号：19520017

研究課題名（和文） 歴史文献研究をベースとした日本的動物倫理学の構築研究

研究課題名（英文） Research on the construction of Japanese animal ethics based on the investigation of historical texts

研究代表者

伊勢田哲治 (ISEDA Tetsuji)

京都大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号： 80324367

研究成果の概要：

本研究においては、英米の倫理学における近年の動物倫理の議論の動向を分析するとともに、動物愛護運動が導入された明治から大正期の日本における動物愛護運動の全貌を明らかにする作業を行った。これらの作業を通じて、「愛護」という言葉に象徴される日本的な動物倫理意識と 19 世紀から現在にいたる欧米の動物倫理意識の間にある深い溝がうきぼりにされた。それと同時に、英米の倫理学の中でも動物倫理のあり方に変化が生じつつあるということも明らかとなり、次の展開へのヒントを得ることができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	800000	240000	1040000
2008 年度	800000	240000	1040000
年度			
年度			
年度			
総計	1600000	480000	2080000

研究分野：倫理学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：動物倫理 倫理学 日本倫理学

1. 研究開始当初の背景

動物倫理学と、それに対応する動物福祉への取り組みや動物の権利運動などは欧米では非常に盛んであるが日本においては影響力がなく、ガイドライン等も欧米に数十年遅れての後追いになっている。これは取り組みが遅れているという面もあるであろうが、日本的な動物倫理の理論的研究がなされていないために、欧米に固有の動物倫理の考え方についても同じ理論水準の議論を返すことが

できないため後追いをせざるをえなくなっているという側面がある。

本研究代表者は倫理学の研究者として、英米の倫理学を研究する中で、そこにある非常に論理的な構造に気づき、これがなぜ日本人にとって動物倫理を真剣に受け取る理由にならないのだろうか、ということに問題意識をむけてきた。その食い違いについて知る手がかりとして、戦前の動物愛護運動には、日本的な動物愛護意識の原型がみられるのではないかと考え、以前から少しずつ調査を行っ

てきた。そこからある程度様子が分かかってきたところで申請したのが本計画であった。日本の動物愛護運動の歴史についてはいくつかの研究がすでに存在するが、そうした先行研究も未だ断片的な情報のレベルにとどまっており、それを倫理学の観点からの分析の対象とした研究は皆無である。そうした点で本研究が貢献できる余地は十分にあった、というのが研究開始当初の背景であった。

2. 研究の目的

本研究では、欧米流の動物愛護思想と日本人が出会った明治期に焦点をあて、その当時の日本人側の反応や日本人による動物倫理言説を検討していくことで、日本的な動物倫理を構築する手がかりを得ることを目的とした。伝統的な動物観とされるものとこの時期の言説との比較、環境倫理における同様の試みとの比較、欧米流の動物倫理との比較なども行っていくことを考えた。

3. 研究の方法

研究の主な手法となるのは、文献調査である。対象となる文献は、第一には戦前の動物愛護運動に関係するさまざまな文献である。戦前の愛護団体については断片的な情報しか残っておらず、新聞、雑誌、社会問題に関する資料集など、さまざまな媒体を利用して全体像を構築していく必要がある。それと並行して、欧米の過去から現在に至る動物倫理や周辺の倫理学の文献を調査する必要もある。さまざまな場所で講演を行い、フィードバックを得ることもこうした研究においては重要な研究手法となる。こうして得られた情報を総合的に踏まえつつ、日本的動物倫理のこれまでとこれからを考えるというのが研究のもっとも重要な部分であるが、この部分については特別な手法を使うわけではない。

4. 研究成果

本研究においては、まず、年表や文献表という形で、戦前動物愛護運動に関する基礎資料が整理された。この中には、既存の研究でほとんど言及されることのなかった事項や文献も含まれており、基礎資料のみでも十分学術的な貢献となっている。こうした資料をもとに、「愛護」概念の分析や、戦前の日本における日本人の動物愛護運動と在留外国人の運動との方向性の違いが明確になってきた。一言でいえば、「動物虐待防止」から「動物愛護」へと運動の名前が言い換えられていく中で、日本の運動は情操

教育を主眼とした徳倫理的な運動としての性格を強めていくことになる。そこで、虐待防止そのものを目的とする在留外国人とおおきな食い違いが生じることになる。他方、欧米の動物倫理も徐々に変化しつつある。これまでは功利主義や義務論といった特定の立場から主張されていた動物解放論であるが、現在では、カント主義、契約説、徳倫理学など、本質的に動物解放論と折り合いの悪い理論的立場からでも動物への配慮の重要性が主張されるようになってきている。中でも、ハーストハウスらの徳倫理的動物倫理は、日本的なアプローチと欧米のアプローチの橋渡しとなりうる存在として注目される。本研究では、より積極的に日本的な動物倫理学の姿を描き出す地点までは行かなかったが、次の展開につながるような重要な知見を多く生み出すことができたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

(1) Tetsuji Iseda "How Should We Foster the Professional Integrity of Engineers in Japan? A Pride-Based Approach", *Science and Engineering Ethics* vol. 14, 165-176, June 2008. (online version published in November 2007)

(2) Tetsuji Iseda "Unsettled-Domain Utilitarianism: A Revision of Hare's Two-Level Theory for Application" 『哲学』59号, 25-38 ページ、2008年4月

(3) 伊勢田哲治 「21世紀の生物学の哲学---文化的進化への関心の高まり---」 『イギリス哲学研究』31号 95-102 ページ、2008年3月

(4) 伊勢田哲治 「技術者倫理における「自律」と「自立」」 『技術倫理と社会』(ETの会) 第3号、2008年4月、4-7 ページ

[学会発表] (計 7 件)

(1) 伊勢田哲治 「共同作業としての批判的思考と「思いやりの原理」」 『批判的思考の認知的基礎と教育実践』 研究会講演、2008年7月27日、京都大学にて

(2) 伊勢田哲治 「動物解放は新しい道徳直観になるか？」 日本イギリス哲学会第38回関西西部会例会、2008年7月5日、京都大学にて

(3) Tetsuji Iseda, "The multiple factors that influenced the establishment of the first Society for the Prevention of Cruelty to Animals in Japan", presented at The 16th Annual Conference of the International Society for Anthrozoology, University of Tokyo, October 4th, 2007.

(4) Tetsuji Iseda "When Is Diversity within a Field Desirable?: A Social-Epistemological Analysis of Current American Sociology" presented at the Joint Annual Meeting of Society for Social Studies of Science and European Association for the Study of Science and Technology, Rotterdam, The Netherlands, August 22, 2008.

(5) 伊勢田哲治「倫理学の視点から見た技術者の自立」科学技術社会論学会第7回年次研究大会ワークショップ「技術者階層の社会的自立への課題」、大阪大学にて、2008年11月9日

(6) Tetsuji Iseda"Why Do Japanese not Take Animal Rights Seriously?: A Historical Analysis" presented at Applied Ethics: The Third International Conference in Sapporo, Hokkaido University, Sapporo, November 23, 2008. (pp. 123-128 of the proceedings)

(7) 伊勢田哲治「技術者のための動物倫理・倫理学入門」ETの会例会講演、花車ビル北館5階会議室（名古屋市）にて、2009年1月24日

〔図書〕（計 3 件）

(1) 伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』名大出版会、2008年11月、364ページ

(2) 奈良由美子・伊勢田哲治編『生活知と科学知』放送大学教育振興会 2009年3月

(3) 伊勢田哲治『歴史文献研究をベースとした日本の動物倫理学の構築研究 平成19年度～平成20年度科学研究費補助金（基盤C）研究成果報告書』2009年3月 131ページ
<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/~tiseda/works/kaken2009.pdf>

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

該当せず

○取得状況（計 0 件）

該当せず

〔その他〕

伊勢田哲治「環境報告書を用いた教育実践」（教育実践報告）『国立大学法人名古屋大学環境報告書 2008』名古屋大学施設管理部施設管理課、34ページ、2008年9月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊勢田哲治 京都大学院文学研究科 准教授

研究者番号 80324367

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし